

TOPIC 1 「国産材の家認定制度」スタート 山側と工務店の連携加速

(一社)日本林業協会、(一社)全国木材組合連合会など、森林・林業関係の主だった団体で構成される(一社)国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会は、国産材の循環利用を推進に向けて、「国産材の家認定制度」をスタートした。

同協議会は、「国産材の活用に向けた行動を行う」という意志を持つ企業を「共に行動する企業」として認定している。認定されている企業は工務店、ハウスメーカー、資材流通、林業・木材利用関連など。

今回の「国産材の家認定制度」では、「共に行動する企業」が一定の要件をクリアすることを条件に、その家を「国産材の家」と認定する。申請フローは、まず、「共に行動する企業」として認定を受けた工務店が、建設する住宅につい

て「認定申請書」を作成し、同協議会に提出。協議会は、要件を満たしていれば、「国産材の家認定証」および「二酸化炭素固定量・吸収量簡易計算書」を発行する。

認定を受けた工務店は、施主に認定証を贈呈。再造林、カーボンニュートラル、地方創生などに寄与していることを説明し、環境意識の醸成を図る。同協議会は、「国産材の家認定」をした住宅および工務店について、会員および工務店などに対して積極的にPRする。一方、必要に応じて、工務店が使用した部材の跡地において抽出検査を行い、森林所有者に確認し、不備がある場合は改善を指示する。

山側の林業関係者と、需要者側の工務店が協力体制を築き、国産材活用を推進する新しい取り組みとして注目を集めそうだ。

TOPIC 2 戸建ストック性能向上へメーカー各社がアプローチ強化

建材メーカー各社が、戸建の性能向上リノベを支援するパッケージ提案や、ネットワーク構築などの取り組みを強化し始めた。

LIXILは、リーズナブルに健康で快適、省エネな暮らしを実現する高性能住宅工法「まるごと断熱リフォーム」を開発し、2021年10月、全国販売を開始した。

硬質ウレタンフォームを使用した壁断熱、吹込み用グラスウールによる天井断熱などによって壁・天井・床の断熱性能を高める。また、内窓の設置など開口部断熱を組み合わせ、家全体をまるごと断熱リフォームし、既存の住宅を省エネ住宅へ生まれ変わらせる。

YKK APは2021年10月、全国の工務店と協働し、「性能向上リノベの会」を発足させた。2030年度までに累計1万棟の性能向上リノベを手掛けていくことを目指す。

「性能向上リノベの会」では、技術サポート、業務サポート、営業サポート、情報提供のネットワーク構築などを行



YKK APが発足させる「性能向上リノベの会」のイメージ

う。技術サポートでは、52項目からなる建物の調査リストなどを用意するほか、この建物調査リストの内容を入力することで工事費用を確認できるツールなどを提供する。築年数やリノベーションのパターンによって改修例などを可視化するといったサポートも行う。

ここにきてメーカー各社が強化する戸建性能向上リノベをサポートする取り組みは、従来なかなか克服できなかったボトルネックを解消するものであり、市場拡大に向けて大きな推進力となりそうだ。

今知りたい情報がここにある
住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/